

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『100年後からみて歴史が変わった社会実験を』

活動団体の活動地域 : 奈良県奈良市

活動団体名 : 奈良コクリ！実行委員会

中間支援主体名 : 一般社団法人TOMOSU

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

奈良が持つ伝統的な自然観や、それが豊かに表れた歴史的・文化的資産を大切にしながら、領域を超えて結びつき、持続可能で新しい価値を生み出すようなワクワクした地域

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

行政、企業、起業家、金融機関、クリエイター、大学、NPO、農家、福祉など多様なセクターのステークホルダーと協働する仕組みを構築している。参加する人は普段の肩書にとらわれず、それぞれの主体性をもとに関係性を構築することで、想いのあるローカルSDGs事業を生み出していく。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 春日山原始林の活動を支える事業・組織づくり
- コミュニティコンポスト事業
- コミュニティファンドの設立
- + α

地域の現状

■奈良市の資源

- 歴史的・文化的資源、自然資源が豊富で身近
- 過去4年連続で人口は社会増

■奈良市の課題

- 観光客の滞在時間が短く、物見遊山的観光
- 一人当たり観光消費額は全国ワーストクラス
- 県外就業率が全国トップクラス
- 女性就業率全国ワーストクラス

2026年度末の状態目標

- ・ ローカルSDGs事業（コミュニティファンド設立）
- ・ 新たなローカルSDGs事業の取り組み開始

2025年度末の状態目標

- ・ ローカルSDGs事業（コンポスト設置）
- ・ 奈良コクリ！WEBサイト構築（情報発信）

2024年度末の状態目標

- ・ 実行委員会の組織化
- ・ ローカルSDGs事業（春日山原始林の新組織発足）

■見立て

活動団体のプログラムは「関係の質」を高め、その過程で新たな活動の種が自律的に生み出していくことを目的に設計されている。そのため主体性を伴った事業が生まれてきている。

一方で課題としては生まれてきたローカルSDGs事業の「事業採算化」や、応援者や仲間を集める「情報発信」機能であると考えます。

■打ち手

- ・ コクリ！キャンプ、コクリ！ラウンジという関係性強化の取組の安定的実施に向けた支援
- ・ ローカルSDGs事業の事業化に向けた経営支援（事業づくり、組織づくり）
- ・ 情報発信の体制強化に向けた支援（来年度WEBサイト制作に向けた準備）

■中間支援機能の強化・振り返り

本事業を通じて、獲得したいこと

- ・ 活動団体の自律性を尊重しつつも、中間支援主体として適切な打ち手の実施
- ・ 地域全体の動きやリソースを把握したうえで、地域にインパクトを出す構想力
- ・ 地域に不足しているリソースやプレイヤーを考え、幅広く巻き込む力

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通の予定													
			◆中間支援ギャザリング①	◆キックオフ（ブロックごと）					◆中間共有会（ブロックごと）			◆中間支援ギャザリング②	
活動団体の予定（関係性強化＝土壌作り）													
	コクリ！ キャンプ				◎								
	コクリ！ ラウンジ		●			●		●				◎	ステークホルダーMTG
活動団体の予定（ローカルSDGs事業）													
	春日山原始林PJ			● 山歩き	企画検討			● レスパイト ハウス訪問	ツアー（来春実施）・組織づくり検討				
	コミュニティ コンポストPJ	仲間づくり			企画検討			● コンポストアド バイザー打合せ	募集		● ● ● ● コミュニティ コンポスト講座		
	コミュニティ ファンドPJ	事例収集および企画検討							募集		● WS実施		
中間支援主体の予定													
	伴走支援												

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

事業主体を探す

中間支援主体の支援

● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

コミュニティコンポスト事業の発起人は思いはある人だが、人に頼ることが苦手で、プロジェクトを推進するのに慣れていない人だったので、事業が進まない。活動を進めるためには、一緒に動く仲間が必要だと考えた。

● 具体的な支援内容（打ち手）

7月に開催するコクリ！キャンプで可能性のある人とつなぐべくチーム分けの設定を提案。その後、チーム内の役割分担を整理した。活動団体の中で全体を統括する金さんの負担が大きかったため、事務周りを泉尾さんに任せる話をする提案をした。

● 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

役割分担が明確になり、チーム全員の動きがスムーズになった。

● 中間支援主体としての気づき・成長

直接的にサポートするのではなく、間接的にサポートをする大切さ

活動団体の取組

● 活動名・時期

コミュニティコンポスト事業
2024年7月~11月

● なぜそれを実施したのか（実施目的）

コクリ！キャンプは個人による深い内省と、共に参加する仲間との対話を同時に行うので、参加したメンバーは短時間で関係性が構築される。同じチームに誰と誰を入れるかが重要で、今回の場合はコンポストに興味がある2人をより強固につなげるためにホームチームに設定した。

● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

コクリ！キャンプでは、発起人が涙を流しながら仲間と話し合った。その後、自分一人で抱え込まず、チームを頼るようになって全体の動きがよくなった。そのうえで、役割分担をする際には、泉尾さんと金さんで対話する場を設定し、じっくり状況を話したことで、泉尾さんがチームに主体的に関わるきっかけになり、全体統括する金さんの負荷が軽減された。

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

事業を生み出す

中間支援主体の支援

● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

活動団体が初めて講座を実施するにあたり、判断に悩んだときの相談対応や、抜けている観点の指摘が必要だと考えた。また、本講座単体だけでなく、今後の継続も見据えた助言が必要になる。

● 具体的な支援内容（打ち手）

基本的には活動団体の全体統括である金さんがコミュニティコンポストチームの検討サポートに入り、中間支援としては適宜相談・助言を行うにとどめた。具体的には、講座を立ち上げるときに考えるべきことの整理や、今後の活動継続性を踏まえたうえでの記録の残し方の提案等を行った。

● 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

活動団体が大切にしたいことを保ちながら、主体性を持って取り組んでいる。

● 中間支援主体としての気づき・成長

いかに活動団体の主体性を奪わずに、成功体験を積んでいけるように支援できるかを考える。

活動団体の取組

● 活動名・時期

コミュニティコンポスト事業
2024年11月~2025年1月

● なぜそれを実施したのか（実施目的）

コミュニティコンポスト講座をやりたいと思ったのは、自分たちが純粋にコンポストについて学びたいという目的もあるし、同じように学びたいと思う人たちとのつながりたい（＝仲間集め）という目的もあった。

● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

講師や講座運営側だけでなく参加者を含め、全員で講座を作り上げている雰囲気のあるコミュニティが育っていている。LINEオープンチャットでのやりとりも盛んにおこなわれている。今後継続したコミュニティが育ち、他地域への拡大の可能性がある。

活動・支援のプロセスの振り返り

- (特に前2スライドの支援を実施するにあたり、) 今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？ (中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入)

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目(番号)	支援をしたタイミング等
協働のプロセス	プロセス支援	(1) ①	コクリ！キャンプ・ラウンジの時
協働のプロセス	プロセス支援	(2) ①	コクリ！キャンプ・ラウンジの時
チェンジ・エージェント機能	問題解決提示機能	(1) 全般	各ローカルSDGs事業の企画検討MTGの時

● 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

コクリ！キャンプで培われた信頼関係があるからこそ、活動団体のチームの中できちんと意見を言えたり、各々が率先して行動できたりしたのだと確信している。

また、ステークホルダーMTGにおいて「地域のありたい姿」の議論が盛り上がったのも関係性がベースにあるからだと考えている。

● 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

活動団体に主体的に考えてもらうことを意識しながら、必要に応じて問題解決の方向性について意見をすることができたので、問題解決提示機能については向上したと考えている。その結果、中間支援主体のソースはそこまで割かなくともプロジェクトを進めていくことができるようになった。

● R6課題だと感じたこと

全プロジェクトに関して適切な距離感で中間支援ができたとは言えない。もう少し積極的な関与が必要であるプロジェクトもあるし、今後新しいプロジェクトが始まっていくので、ソースの適切な配分を意識していく必要がある。

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- 地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるといって考えているか。R7～中間支援主体として今後どのようになりたいか。

1. 各個人に生まれた事業や活動の種を収益化するサポート。社会的事業や地域を元気にする活動は、単体での収益化が難しい場合もあるため、収益化ノウハウを身に着け、その機能を発揮したい。

2. 社会的インパクトを意識した規模の拡大。現時点では規模の小さい取組を支援していることも多いため、関わる人・組織を広げ、取組の規模を拡大することで、社会的インパクトを指向していきたい。具体的には、今の取組の横展開を促進や、大企業などの巻き込み。

- 活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）

【仲間を探す・体制を整える】

次年度はさらに関わる人を増やしていくために、奈良コクリ！プロジェクトから派生して生まれた取組（ローカルSDGs事業）を紹介するためのWEBサイト等の制作に着手する。

【事業を生み出す】

事業の持続性を考えたときに、事業ごとの収益性を担保することが重要である。それぞれの事業の収益モデルを構築していくことと、コミュニティファンドを設立を進めていくことが重要になる。

- 地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと

- ・（これまで通り）視野を広げてもらえるような助言
- ・（これまで通り）補助制度の情報提供